

# 風景を 見る眼

— 国立公園絵画展 —

いつの時代も、私たちが魅了してやまない風景画。それは目の前の風景をただ単に写し取ったのではなく、画家が感興を覚えた風景を独自の筆遣いで描いたためだと言えます。

開館以来、風景画の収集に努めてきた当館は、2012（平成24）年に「国立公園絵画」コレクションを収蔵する機会に恵まれました。「国立公園絵画」とは、国立公園の制度が整いつつあった昭和初期、その普及の一環として、当時を代表する洋画家たちによって手がけられた風景画を指します。戦災などで多くの作品が失われたものの、戦後、次世代の洋画家たちが制作に参加。約80年の歳月を経て、2009（平成21）年に全80点が揃い、近現代の洋画史を概観できる一大風景画コレクションとなりました。そして、国立公園の制度づくりに日光が深く関わっていたこと、当館が国立公園内に位置する数少ない公立美術館であるという由縁から、財団法人国立公園協会よりこのコレクションが寄贈されるに至りました。

洋画家として独自の足跡を残した小杉放菴も国立公園絵画を手がけましたが、残念なことにその作品は戦災で失われました。そこで本展では、国立公園絵画コレクションから選りすぐった作品を中心に、小杉放菴をはじめとする当館所蔵の風景画の数々を併せて紹介することで、近現代の風景画の諸相をご覧ください。

風景を見つめた画家の「眼」と、その筆遣いをぜひ会場でお楽しみください。

## ■ 開催概要 ※新型コロナウイルス感染症の状況により、会期等が変更になる場合があります。

会期：2022年4月9日（土）～7月3日（日）

休館日：毎週月曜日

開館時間：9時30分～17時（入館は16時30分まで）

入館料：一般730（650）円、大学生510（460）円、高校生以下は無料

※（ ）内は20名以上の団体割引料金

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、日光市公共施設使用料免除カードの交付を受けた方とその付き添いの方1名は無料

※第3日曜日「家庭の日」（4月17日、5月15日、6月19日）は、大学生は無料

主催：公益財団法人小杉放菴記念日光美術館、日光市、日光市教育委員会

## ■ 本展の3つの見どころ

### 1 巨匠たちの風景画が一堂に会す！

昭和初期から平成に至るまで、当時の代表する洋画家たちによって手がけられた国立公園絵画。約80年の時を経て完成したこのコレクションは、近代日本の洋画壇の礎を築いた藤島武二や石井柏亭、ヨーロッパで吸収した技法をもとに独自の画風を切り拓いた梅原龍三郎、戦後の洋画壇を担った猪熊弦一郎や小磯良平など、実に個性的な画家たちによって手がけられました。

本展はこの80点のコレクションから選りすぐった作品と、併せて洋画で独自の足跡を残した小杉放菴の作品を一堂に会することで、風景画の豊かな諸相をご覧ください。

### 2 「風景」を絵画で楽しむ！

その場に足を運ばなくても、インターネットやSNSを通して、簡単に風景を見られるようになった現代。その一方、画家が実際に足を運び、目にした風景の「感動」が独自の筆致で表されているのが、「風景画」です。

この「国立公園絵画」は、中禅寺湖や戦場ヶ原をはじめ、富士山や十和田湖など誰もが知っている数々の風景が描かれていますが、絵画を通してその風景を見ると、これまで抱いていたイメージと異なる印象を受けるかもしれません。それは風景へのまなざし、筆遣い、色使いに画家の個性が存分に表れているためだと言えます。見たい風景にすぐにアクセスできる今、いつか訪れてみたい場所、いつか見てみたい風景を本展で探してみるのも一興です。

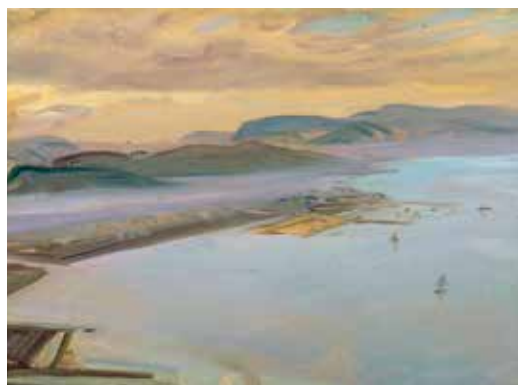
### 3 風景画の「いま」を知る！

明治期に洋画家たちが苦闘しながらもその基礎を築き、大正・昭和期を通して画家たちがさらなる表現を追求したことにより、発展した日本の風景画。そして今日も、新たな風景画が画家たちによって生み出されています。

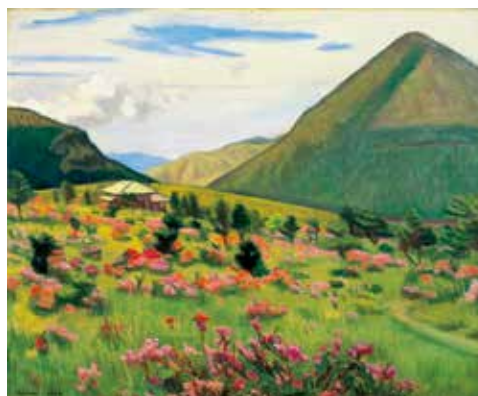
本展で併せてご紹介するのが、日光市出身の洋画家・入江観（1935-）の風景画です。青空の下に広がる、長年居を構える茅ヶ崎や日光の風景を描くことから、「蒼天の画家」と呼ばれる入江ですが、故郷の風景の美しさに気づいたのは40代を過ぎてからのことであり、現在も精力的にその風景を描いています。故郷の風景を描いているにもかかわらず、入江の作品は、ノスタルジックな要素は一切感じさせず、見る者に清新な印象を与えます。この清新な風景画に、入江はどのような意味を込めたのか。彼が風景画に込めた思いを軸に、風景画の「いま」を探ります。

■ 広報用画像

※申込方法など詳細は、5頁をご参照ください。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

- ①藤島武二《屋島よりの展望》1932（昭和7）年
  - ②石井柏亭《雲仙・春》1934（昭和9）年
  - ③和田英作《三保富士》1953（昭和28）年
  - ④川口軌外《英虞湾》1953（昭和28）年
  - ⑤児島善三郎《発哺よりの展望》1953（昭和28）年
  - ⑥五百城文哉《東照宮・五重塔》1892-1905（明治25-38）年頃
  - ⑦小杉放菴《巖島風景》1933（昭和8）年
  - ⑧入江観《湖畔晩夏》2015（平成27）年
- 作品は全て小杉放菴記念日光美術館蔵

## ■ 会期中のイベント

・担当学芸員によるギャラリートーク（予約不要・要入館料）  
4月23日（土）、5月15日（日）、6月18日（土）  
各日 11時～（1時間程度）

## ■ 次回展予告

開館 25 周年記念 大観とその時代 光ミュージアム名品展  
2022年7月9日（土）～9月11日（日）

## ■ お問い合わせ先

小杉放菴記念日光美術館  
〒321-1431 栃木県日光市山内 2388-3  
Tel: 0288-50-1200 Fax: 0288-50-120  
担当学芸員：清水友美  
E-mail: shimizu-tomomi ■ khmoan.jp  
（■は@に置き換えてください）

「風景を見る眼—国立公園絵画展—」  
広報用画像申込書

FAX: 0288-50-1201 E-mail: shimizu-tomomi ■ khmoan.jp

小杉放菴記念日光美術館 清水行

■ 画像使用に際してのお願い

- ご希望の図版の左枠内に☑を入れて、FAXかメールにてお送りください。  
(リリース中の図版に付された1～8が、図版番号です)
- 使用目的は、本展のご紹介のみに限ります。
- 画像は、原則、全図でご使用ください。トリミング、部分使用、文字のせは無断で行なわないよう、お願いいたします。
- 掲載する場合は、各画像のキャプションを必ず記載してください。
- 画像のご使用は1申込につき1回とし、使用後のデータは破棄してください。
- 基本情報確認のため、展覧会担当まで必ず校正紙をお送りください。
- 掲載見本を展覧会担当までご送付いただきますよう、お願いいたします。

☑	No	キャプション
	1	藤島武二《屋島よりの展望》1932（昭和7）年、小杉放菴記念日光美術館蔵
	2	石井柏亭《雲仙・春》1934（昭和9）年、小杉放菴記念日光美術館蔵
	3	和田英作《三保富士》1953（昭和28）年、小杉放菴記念日光美術館蔵
	4	川口軌外《英虞湾》1953（昭和28）年、小杉放菴記念日光美術館蔵
	5	児島善三郎《発哺よりの展望》1953（昭和28）年、小杉放菴記念日光美術館蔵
	6	五百城文哉《東照宮・五重塔》1892-1905（明治25-38）年頃、小杉放菴記念日光美術館蔵
	7	小杉放庵《巖島風景》1933（昭和8）年、小杉放菴記念日光美術館蔵
	8	入江観《湖畔晩夏》2015（平成27）年、小杉放菴記念日光美術館蔵

貴社名：

\_\_\_\_\_

媒体名：

\_\_\_\_\_

ご担当者名：

\_\_\_\_\_

TEL：

\_\_\_\_\_

FAX：

\_\_\_\_\_

E-mail：

\_\_\_\_\_